

製品名: PRMT7 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe02475**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.67mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000
分子量	Calculated MW: 78 kDa; Observed MW: 78 kDa

抗原情報

遺伝子名	PRMT7
別名	SBIDDS
遺伝子 ID	54496
SwissProt ID	Q9NVM4
免疫原	ヒト PRMT7 の合成ペプチド

背景

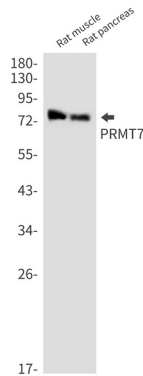
オメガ-N モノメチルアルギニン (MMA) と対称ジメチルアルギニン (sDMA) の両方の形成を触媒できるアルギニンメチルトランス

フェラーゼで、MMA の形成を優先します。特に、小さな核内リボ核タンパク質 Sm D1 (SNRPD1) と Sm D3 (SNRPD3) のアルギニン残基の対称ジメチル化を媒介します。このようなメチル化は、snRNP コア粒子の組み立てと生合成に必要です。特に、ヒストン H4 'Arg-3' の対称ジメチル化を媒介して H4R3me2 を形成します。CTCF によって H19 印刷制御領域 (ICR) にリクルートされ、ヒストン H4 をメチル化して H4R3me2 を形成することで遺伝子インプリンティングに役割を果たし、これらの部位で DNA メチルトランスフェラーゼをリクルートする可能性があります。胚性幹細胞 (ESC) の多能性にも関与している可能性がある。また、in vitro ではヒストン H2A およびミエリン塩基性タンパク質 (MBP) のアルギニンメチル化を媒介することができるが、in vivo におけるこれらの結果の関連性は不明である。

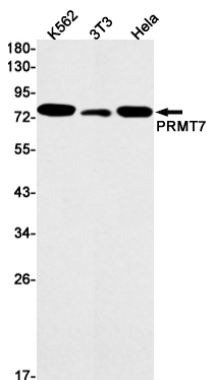
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



PRMT7 抗体を使用したラット筋肉、ラット膵臓溶解物中の PRMT7 のウエスタンブロット分析。



PRMT7 抗体を使用した K562、3T3、HeLa 溶解物中の PRMT7 のウエスタンブロット分析。